

2023年度 通年 政経学部 授業科目

※本掲載の授業科目は開講当時の内容です。授業科目の詳細は、年度ごとに更新されるWEBシラバス等をご参照ください。

## 基礎ゼミナール

政経学部 経済学科 講師 赤石 秀之 先生

※本授業は同学部部の佐藤恵先生、柴田怜先生との合同ゼミ形式によるものです。

### 授業内容

SDGsプロジェクト『目指せ食品ロス・ゼロ！ミッションin国士館大学』では、学生達は食品ロス削減を目指す企業と協力し、実践的な課題解決に取り組みます。



### 先生に聞く授業ポイント

未来を担う学生の視点から環境問題を考える！

この演習では、大学生が自分達で疑問を見つけ、解決策を考え、他者に効果的に伝えるスキルを磨きます。関連する文献や専門分野に焦点を当て、問題解決の基礎を学びます。環境経済学を軸に、問題解決能力とコミュニケーションスキルを高め、卒業後に必要となる能力を身に付けることを目指します。

#### Point 1

実際の問題をテーマにした課題解決

フードロスやフードシェアリングといった**現実の問題をテーマに、環境問題やSDGsの理解を深める**授業です。初回では、企業担当者が食品ロスの実情やサービスの概要を説明し、利用率や継続性の課題を提示します。**学生はグループでこれらの課題に取り組み、解決策を提案**します。大学生のうちから企業に課題解決策を提案できるのは、非常に貴重な学びの機会となります。

#### Point 2

学習方法はPBL

学習方法はPBL (Project Based Learning)です。**仲間と協力して、リサーチやデータ解析を通じて問題を探求し、最適な解決策を模索**します。PBLの良さは、実践的な問題解決能力を育むことです。現実世界の課題に立ち向かい、チームで協力して解決策を探求することで、深い理解と創造性を培います。また、**実践的な経験を通じて、自己成長と自信を築くことができます。**

#### Point 3

学生主体で進めていく

課題解決型学習は初めての人にとっては挑戦的ですが、失敗も成長の一環と捉えられます。**教員はサポートの提供に留まり、解決策の探究は学生達に任されています。**もちろん、困ったことがあればいつでも相談に乗りますので、学生には**企業の課題に取り組む楽しさ**を感じてもらいたいです。授業では、中間プレゼンテーションを通じて進捗を確認し、適切な支援を行います。

### 学生に聞く推薦ポイント

実問題を題材にした実践型の授業でスキルアップ！

実践的なプロジェクトに積極的に参加し、**現実問題の課題に取り組む**ことで、情報整理能力や問題解決能力を実践的な場で高めることができました。具体的には、複雑な情報や課題に対して、整理されたアプローチを考え、**実行するためのスキルを身につけました。**



プレゼンテーションスキルの向上！

わかりやすいプレゼンテーションスライドを作成するためのアドバイスをしてくれて、効果的なプレゼンテーションを行うことができました。先生の指導により、より効果的な**プレゼンテーションスキルを磨くことができました**と感じています。



先生からのフィードバックが成長につながる！

**先生からのフィードバック**を真摯に受け止め、次の段階に活かしました。具体的には、先生からの指摘や提案を参考にし、プロジェクトやプレゼンテーションの改善点を抽出し、次の段階の準備や実行に反映させることで、**成長につながった**と感じています。



#### 担当教員からのコメント

このPBL型の授業は、学生にとってただ教員の話聞くだけの授業ではなく、自分で考えて行動していくため、将来のキャリアにも直結する実践的な学びの場となります。食品ロス削減という具体的な

テーマを通じて、持続可能な社会を目指す行動力と責任感が育めると思います。

2023年度 集中 文学部 史学地理学科 授業科目

※本掲載の授業科目は開講当時の内容です。授業科目の詳細は、年度ごとに更新されるWEBシラバス等をご参照ください。

## 地理学野外実習B

文学部 史学地理学科 講師 桐越 仁美 先生

### 授業内容

大泉町におけるブラジル系エスニック・ビジネスの立地と集積状況を把握することを目的としたフィールドワーク型の科目です。2日目の調査後、関連研究との比較を行い、大泉町におけるエスニック・ビジネスの現状を分析します。

### 先生に聞く授業ポイント

地理学的な見方・考え方を養う野外実習！

この演習では、地域の文化や歴史を実地で調査し、分析する方法を学びます。フィールドワークを通じて、街や地域の人々の生活や環境に触れ、その特性や背景を理解します。現地での観察やインタビューを通じて、地域の魅力や課題について深く学びます。これにより、分析力だけでなく、地域社会への理解を深めることができます。



#### Point 1

実際に起きている事象をテーマ

「大泉町には外国人が人口の20%を占めています。その理由は何でしょうか？」その背景には、立地要因や町の外国人の誘致など、さまざまな要因があります。実際の状況をテーマに、実地での調査や分析を通じて、地域の多様性や社会の構造を深く理解することができます。これにより、楽しみながらより深い知識を身につけ、地域社会に関する洞察力を高めることができます。

#### Point 2

1泊2日のフィールドワーク

1泊2日のフィールドワークは、短期間の集中講義のため、調査や活動に集中して取り組むことができます。また、一晩現地に滞在することで、その場の雰囲気や文化をより身近に感じ、深い理解を得ることができます。さらに、チームメンバーとの交流や協力を通じて、チームワークやコミュニケーション能力を向上させることができます。通常の講義形式とは異なり、密度の濃い学びの体験が得られるのも魅力の一つです。

#### Point 3

思考の幅を広げる！

2日間のフィールドワーク内では、グループメンバーや他のチームから、調査研究を通じて得られた情報や解釈についての発表を聞くことで、自分とは異なる視点やアプローチを知る貴重な機会があります。これにより、学生は新たな学びや発見が得られたと感じ、自らの思考の幅を広げることができます。1つの事象に対して様々な見方ができることを体感し、より深い分析力を養うことができます。

### 学生に聞く推薦ポイント

モチベーション高く調査研究を進める事ができた！

先生からのフィードバックでは、私たちの発表を通じて改善点や意識すべきことについてアドバイスをを受け、同時に良かった点も褒められました。良い点を見つけてくださることで、調査研究のモチベーションも高まりました。



Solution

他者から得られる新たな気づき！

調査結果のミーティングでは、各班の視点や気づきに焦点を当て、「どうしてそういうところを見るに至ったのか」「なんでそれに気がついたのか」という観点で議論しました。このアプローチにより、新たな気づきが生まれ、深い理解が促進されました。



Stimulation

反省を活かして再挑戦！

1日目に他の班の発表や先生からのフィードバックを受け取り、調査の甘さを認識しました。その経験を翌日の調査に生かし、より質の高い調査を行うことを目指しました。1日目の調査の反省を翌日に再挑戦できることは、とても自分の学びになりました。



Growth

#### 担当教員からのコメント

教員ごとに実施する野外実習型の授業で、7コースに分かれて実施しました。私のコースには13名が参加し、3～4人ごとのグループに分かれて大泉町を調査しました。学生たちは初めて話すメンバーもいるなか手探りで調査を始めましたが、次第に打ち解け、初日の

夜のミーティングでは活発にグループディスカッションをするようになっていました。

地域の人へのインタビューも学生たちが主体的におこなったもので、こちらの予想を上回る積極的な姿が印象的でした。

2023年度 秋学期 理工学部 授業科目

※本掲載の授業科目は開講当時の内容です。授業科目の詳細は、年度ごとに更新されるWEBシラバス等をご参照ください。

# 機械設計製作プロジェクトB

理工学部 理工学科 准教授 山口 恭平 先生

※本授業は同学部のモフィディ先生、佐藤公俊先生との合同開講によるものです。

## 授業内容

学生たちのグループは、少人数のものづくり企業を想定し、停電時にも利用できる手回し発電機の商品企画から設計、製作までを行います。そして、最後に各グループが取り組んだプロジェクト内容とその成果をプレゼンテーションします。

## 先生に聞く授業ポイント

架空の会社を想定したモノづくり体験！

この演習では、商品企画から概略設計、部品の調達、詳細設計、加工組立、性能評価、そして最後に成果の発表まで、一連の流れを体験します。このプロセスで成功や失敗を経験しながら、ものづくりエンジニアとして必要なスキルや素養、チームワークなどを総合的に身につけることができます。



### Point 1

知識をものづくりに活かす授業！

機械工学系において、1年次には工学の基礎、2年次には機械工学基礎を学び、3年次には機械工学の専門分野に焦点を当て、徐々に難易度を増していく体系的な学びが提供されます。エンジニアとしては、学んだ知識を実際のものづくりに活かすことが不可欠であり、重要です。2年次に配当される本授業を通じて、学生は理論と実践を結びつけ、問題解決能力や応用力を育てる貴重な経験を積むことができます。

### Point 2

企業さながらのリアル体験

専門科目の理論を実践的なものづくりに応用し、学生の応用力を高めます。問題解決時には修得した多様な知識を活かし、問題解決能力を養います。さらに、少人数チームでの取り組みを通じて、チームワークやコミュニケーション能力を向上させます。実際の経験を通して加工技術や設計ノウハウを身につけ、自らの手で商品企画・製作することで、学生の自主性や創造性、責任感を育成します。これらの経験は、将来のキャリアや社会での活躍に不可欠です。

### Point 3

トライ＆エラーの繰り返し！

社会では、答えが明確な課題は少ないため、エンジニアにはトライ＆エラーを繰り返し、理想に近づけていく能力が求められます。この授業において、先生は後方支援に徹し、基本的に学生にプロジェクトを委ねます。そのような環境下で、学生同士が協力し、共に解決策を模索することで学びが深まります。失敗を恐れずに進むことが求められる中で、学生は成長していきます。

## 学生に聞く推薦ポイント

制約がある中で、企画を考える！

この授業は部品などがあらかじめ準備されているわけではないため、チームメンバーと協力して、製作物に関する商品企画からスタートし、部品の選定や購入、予算の管理などを行いました。様々な制約の中で検討することで問題解決能力が育まれました。



エンジニアとしての姿勢が学べた！

個人ではなくチームでのものづくりが重視され、設定した目標・ゴールに対し、チーム内で計画を立て、実行するプロセスを通じて、様々な能力が培われました。低学年のうちからこのような経験が得られることは、エンジニアを目指す上で、非常に貴重でした。



チーム全体で協力しながら、困難に立ち向かう！

設計や加工、製作の過程において生じた様々な問題に対して、チーム全体で協力してトライアンドエラーを重ねました。困難に立ち向かい、解決できたときの感動は非常に嬉しいものでした。



### 担当教員からのコメント

「ものづくりの企画から設計、製作に至るまでの一連の作業を通じて、ものづくりプロジェクトを立案・運営・完遂するための素養を得ること」を目的とするこの授業では、自動車をはじめとする工業製品のものづくりと同様のプロセスを経験することが出来ます。また、

ものづくりの会社では、チームで仕事を進めることが多いため、本授業を通じて、チームワークを学び、共同作業に不可欠なコミュニケーション能力の向上を図ります。それらは将来の舞台で大いに役立つものと考えています。